

2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 1 月 21 日作成)

小委員会名	住宅ストック法制度・政策小委員会	主 査 名：高屋 宏 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築社会システム本委員会	委員長名：田村誠邦 主 査 名：
設 置 期 間	2016 年 4 月 ～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・空家問題をはじめとし、住宅ストックに対する法制度・政策のありかたを検討するために、現状の問題・課題を把握し、わが国の建築社会システム整備につながる研究を行う。 ・初年度：各 WG の個別目標の具体化／空き家等の問題・課題の質と量的な把握 ・2年度：前年度成果を踏まえた課題の整理／法制度や政策の現状と課題の整理 ・3年度：諸外国の事例の研究／実践的研究の実施 ・4年度：取りまとめ及び補足研究 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 (ただし、応募なし) 主査：高屋宏 (市浦ハウジング&プランニング) / 幹事：齊藤広子 (横浜市立大学) / 柴田 建 (九州大学大学院) / 関栄二 (AGデザイン) / 森田 芳朗 (東京工芸大学) / 藤木 亮介 (スペースユニオン) / 小杉 学 (明海大学) / 長谷川洋 (国土交通省国土技術政策総合研究所) / 村上心 (椙山女学園大学) / 山本 理 (街と住まいの研究室) / 西戸啓陽 (三菱地所コミュニティ)	
設置 WG (WG 名：目的)	マンション・民間賃貸住宅 WG⇒マンション・民間賃貸住宅の管理・再生の適正化 空家資源再生 WG⇒戸建て住宅・住宅地の管理・再生の適正化 公的住宅・団地 WG⇒公営住宅・団地の管理・再生の適正	
2018 年度予算	60,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：-

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>○本小委員会の設置期間(4年)の前半を終え、本年度より3か年目に突入した。後半2か年も、従来の3WG体制の継続が適切と考え、本年度からのWG新設(継続)を行ってきたところである。</p> <p>○大きな活動目標としていた2019年度の建築学会大会(北陸)における研究協議会「建築のリ・スタート」(建築・不動産マネジメント小委員会との合同企画)の実施が決定し、本年度はその準備として研究課題の設定や先進的な取組みの視察・分析等を中心的な活動として議論を進めてきた。</p> <p>○結果的に、各WGにおけるこれまでの成果・課題を踏まえつつ、予定した全6回の小委員会を開催(予定含む)し、概ね活動計画に沿った取組みを進めることができた。「建築のリ・スタート」に関するテーマの設定、事例分析から課題提起やあり方の提案のスタンス等の共有化が図られ、相応の成果が得られたものと評価できる。2019年度はこれをベースにさらに議論を深め、より密度の高い成果となるよう準備を進めることとしたい。</p> <p>①第1回小委員会(3WG合同) / 2018年6月25日 『2019年度建築学会大会での研究集会企画について①』 ⇒各WG主査等による先進事例等の紹介とテーマ設定について議論。</p> <p>②第2回小委員会(公的住宅・団地WG/空家資源再生WG合同) / 2018年7月6日 『二宮団地再編プロジェクト さとやま@マークコモン 視察』 『二宮町を中心に空き家のリノベーション等に取り組む太平洋不動産ヒアリング』</p> <p>③第3回小委員会(3WG+建築・不動産マネジメント小委員会合同) / 2018年10月1日 『2019年度建築学会大会での研究集会企画について②』 ⇒瀬田ファースト/オレンジハウス等のリ・スタート事例分析等</p> <p>④第4回小委員会(マンション・民間賃貸住宅WG) / 2018年11月2日 『黒部パッシブタウン 視察』(YKK AP様のご協力)</p> <p>⑤第5回小委員会(3WG主査他の幹事会) / 2019年1月21日 『2019年度建築学会大会での研究集会企画について③』 ⇒稲毛海岸三丁目団地/パッシブタウン/輪島 KABULLETT/フィオーレ喜連川等のリ・スタート事例分析等</p> <p>⑥第6回小委員会(建築・不動産マネジメント小委員会合同) / 2019年2~3月実施予定 『瀬田ファースト等のリビタの取組み他について』</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 来年度は4年の設置期間の最終年度であり、活動の集大成として研究協議会「建築のリ・スタート」の準備をすること。さらに継続的に検討すべき研究課題を見出すこと。</p> <p>2. 小委員会の発展的継続を考慮し、次世代を担う比較的若手の研究者・実務者をメンバーに加えていくこと。</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。